

産学連携3D教育プロジェクトシンポジウム開催報告

『大学の学びで「働く力」が伸びている』

3月22日開催のシンポジウムで、本プロジェクト2013年度活動の報告が行われた。3連休の中日にもかかわらず、多くの方々にご出席いただいた。

基調講演内容

藤村プロジェクトリーダーによる基調講演では、日本社会は新人に良きメンバーになる事を求めている・大学教育で「方法論」を学ぶことにより社会人の基礎体力を身に付けることが大事・その核心は論文作成のプロセスにある、と強調された。そして大学では、「〇〇（例：元気・声・汗・勇氣）を出す人間に」育てること、その原動力は使命感であると結ばれた。

プロジェクト取組みの紹介

この一年間の活動内容について各特任教員が代表して紹介を行った。

1. 授業紹介…白井

法政大学キャリア教育の三層構造を、社会を見る→企業を研究する→社会に発信する、と解説した。担当の就業基礎力養成と就業応用力養成の内容を説明した上で、目標設定と責任感がポイントであり教員による添削と文章指導に効果があると結んだ。

2. ビデオ教材…鈴木

大学教育の多様化を100対1の大規模授業・10対1のゼミ・1対1の論文と例えて、この大規模授業対応に効果的な手法として紹介を行った。本年度は新規2本に加えて、「ビデオ教材の活用方法」をビデオ化したことを報告、更に企業での活用につなげて産学連携から産学連続への抱負を述べた

3. 働く力測定アセスメントツール（HAT）…有田

一年前に完成のHATをこの1年間実施した結果が中間報告された。本学内外含めての8回実施へ23大学535名が受検した結果に、企業内定者受検結果を参考にして分析したデータ紹介となった。全体としては1～3年生の間に徐々に成長、4年生で一気に伸びる傾向が見られる。

4. 新しいインターンシップ（共働実習）…鈴木

日本でのインターンシップの難しさを分析し、法政大学の共働実習こそ学生の働く力に役立つとの捉え方が提示された。具体的にはコーオペ教育とビジネスコンテスト実施という形で推進している。ビジネスコンテストは授業で学んだ学習スキル実践の場としている。

パネルディスカッション報告

新しいインターンシップのあり方を探ると題された意見交換が行われた。労働の連鎖を体験するのがインターンシップである。社会では新しい価値を作る・問題解決をする能力が求められているがまずは学生時代の労働体験をこれにつなげるとの見解が示された。最後に「夢とは困っている人に役割を果たすこと」と結ばれた。

以上